

日本線虫学会ニュース

Japan Nematology News

目次

◆会長挨拶 (石橋信義)	1
◆事務局から	
1995年度日本線虫学会大会のお知らせ・講演プログラム	2
会誌編集事務局移転のお知らせ	5
◆記事	
Little Rock 顛末記 (奈良部 孝)	6
InternetでNematology (奈良部 孝)	9

会長挨拶

石橋信義 (佐賀大農学部)

今年も暑い夏でした。北半球は何処に行っても暑いようでした。皆様方は如何お暮らしてましたか。私は奈良部君と一緒にリトルロックで開かれたSONの大会に行ってきました。貧乏学会だから暑いときに暑いところでしかやれない、と悪口をいう者もいたけど、作物保護を中心とした学会は、今の時勢いずれも似たようなものだと思います。ましてや線虫学会となると、農業国アメリカでさえも新しい展開を求めて必死にもがいているといった状態でしょう。演題はシンポジウムやポスターまでいれて140位ありましたが、出席者は年々減少していく感じがします。今年は昆虫病原性線虫が殆ど Society of Invertebrate Pathologyの方にやってしまいその分少なくはなりました。それでもやや元気つけられたのは、私よ

りも年配の研究者が (Dr. Burton ENDOさんなど)、まだ現役として講演発表しているところでした (この評価は両面とれるけど)。Dr. SASSERやDr. O'BANNONからも元気な顔を見せていました。8月6日は朝7時にEntomophilicの委員会、午前中は生物的防除で日本勢2人の登場、夜はワークショップが2つあり、手分けして私は International Federation of Nematology Societiesに出ました。焦点はこの連合会を事実上発足させるということで、どのSocietyにおいてもニュース等でしらせること、また来年開催される仏領西インド諸島Guadeloupeでの第3回国際線虫学会議で2002年の開催地決定の件でした。日本はどうかと早速やってきました。日本が大方の希望するところであることは分かっておりましたので、牽制する意味もこめて、500人以下であったら筑波地区でやれるので経費は大きくないが、1000人以上となると京都か

東京になるので、経費はかかり、参加者の負担も大きくなるだろう等々。しかしこういうことは、連中にはあんまり重要でないようにみえました。要するに日本であればいいという感じでした。いずれにせよ、来年の国際会議には日本からも出来るだけ多く参加してもらいたいと希望します。またそれまでに日本の態度もしっかり決めたいと思っています。しかし、国際会議となるとなかなか大変であることは私もよく承知しています。1988年の国際植物病理学会議のときは、線虫部門を引き受けましたが、お膳立てするのに4年はかかりました。1つの部門でこの位ですから、全部をオーガナイズするのは推して知るべし。なんとこのときはFAXもありませんでした。でも現在は電子メールという強力な武器があります。だから通信手段では心配はいりません。むしろ問題となるのは、日本人の苦手な英語ではないかと思います。英語は1年2年外国にいたからといってそう旨くなるものではありません。これは我々の右脳左脳の使い分けからくるもので、全く宿命的なものです。こうなると私のように心臓を強くするしか救いようがないように思う。私の本物の心臓は最近少し調子を乱しておりますが、多分運動不足からくるものでしょう。とにかくせいぜい外国の会議に場数を踏む以外にありません。来年はカリブ海の島に行きましょう。34・5年前だったか、「アメリカの夜」とかいう映画があった。カリブ海のトリニダード・ Tobago の海岸を、ジルバを踊るような足取りで歩く女性の脚。この映画の最後のシーンだったけど、本物に出く遭したら私のちょっと調子の狂った心臓も元に戻るかもしれない。

酷暑の夏などまるでなかったような涼しい秋になりました。佐賀大会は着々と進められています。皆様の健康を祈ります。そして、佐賀でお会いできるのを楽しみにしております。

〔事務局から〕

日本線虫学会

第3回大会のお知らせ

会 期 1995年10月12日(木)～14日(土)

会 場 佐賀大学会館多目的ホール
佐賀市本庄1

日 程 :

10月12日(木)

9:00～11:30 一般講演(多目的ホール)
11:30～12:10 総 会(同 上)
13:00～13:50 特別講演(同 上)
14:15～17:15 シンポジウム(同 上)
18:00～20:00 懇親会(かささぎホール)

10月13日(金)

9:00～11:50 一般講演(多目的ホール)
13:00～17:00 エクスカーション
(佐賀の施設園芸－イチゴ、抑制
キュウリ)

10月14日(土)

9:00～10:30 一般講演(多目的ホール)

大会事務局：佐賀大学農学部

応用生物学科土壤生態系調節分野

〒840 佐賀市本庄1

電話 0952-24-5191(代表)

FAX 0952-22-6274

(会場案内図等の詳細は線虫学会ニュース第5号を参照ください。)

講演 プ ロ グ ラ ム

10月12日(木)

〔一般講演〕 9:00～11:30

(座長 皆川 望)

9:00 101 穴田幸男(群馬農試):群馬
県付近の山林を中心とした環境にお
ける *Mononchina* 亜目線虫

(*Nematoda:Dorylaimida*)の検出記録

9:15 102 相原孝雄(横浜植防):
Meloidogyne marylandi の雄成虫の形
態について

9:30 103 平田賢司(農環研):カラマ
ツから検出された *Longidorus* sp.にお
ける雌・雄間性

9:45 104 白山義久(東京大海洋研):
デスモスコレキダ科線虫類はオパー
ルの外骨格を作る

(座長 清原友也)

10:00 105 真宮靖治・中村直子(玉川大
農):森林における *Steinernema* 属線
虫の空間的分布実態

10:15 106 二井一禎(京大農):松枯れ
被害の小林分内での拡大の様式

10:30 107 奈良部 孝(農研セ):沖縄
県におけるネコブセンチュウの分布
および生理生態的特徴

(座長 真宮靖治)

10:45 108 小林義明(アグロ・カネショ
ウ㈱)・小澤朗人・佐藤允通(静岡
農試)・石原雅之(西部農林):セ
ンリョウ栽培における
Aphelenchoides fragariae の季節的発
生環

11:00 109 Rustom, M.A.・石橋信義・近藤
栄造(佐賀大農):イネクキセン
チュウ(*Ditylenchus angustus*)の *in*
vitro 培養イネ幼苗における発育と
繁殖

11:15 110 清原友也・小坂 肇・橋本ほ
しみ(森林総研)・皆川 望(農環
研):*Rhabditella* sp.に起因するブ
ナシメジの奇形病

11:30～12:10 総 会

〔特別講演〕 13:00～13:50

(座長 石橋信義)

13:00 A1 Roland N. Perry (IRCA-
Rothamsted): Electrophysiological
analysis of sensory responses of
parasitic nematodes.

〔シンポジウム〕 14:15～17:15

(座長 近藤栄造・佐野善一)

14:15 S1 脇部秀彦(佐賀上場営農セ):
イチゴのクルミネグサレセンチュウ
防除の現状と展望

14:50 S2 鳥越博明(鹿児島農試大隅支
場):サトイモのミナミネグサレセ
ンチュウ防除の現状と展望

(休憩 15:25～15:35)

15:35 S3 上田康郎(茨城農研):サツマ
イモのネコブセンチュウ防除の現状
と展望

16:10 S4 古賀成司(熊本県経営普及
課):施設野菜の線虫防除の現状と
展望

16:45 総合討論

10月13日(金)

〔一般講演〕 9:00~11:50

(座長 清水 啓)

- 9:00 201 大類幸夫・松沢春雄(日本たばこ葉たばこ研): PCR-RFLPによる日本産ネグサレセンチュウの主要種の同定
- 9:15 202 水久保隆之・花田 薫(九州農試): ミナミネグサレセンチュウの9体群に対するサツマイモの生育反応の差異及びPCR-RAPD法による生理的レースの識別
- 9:30 203 岩堀英晶(京大生態学研究セ)・神崎菜摘・泉井 桂・二井一禎(京大農): RAPD法を用いた *Bursaphelenchus* 属線虫の種間あるいは種内アイソレイトの同定
- 9:45 204 吉田睦浩(農環研)・田辺博司・山中 総・木村卓生・柴田裕子(SDSバイオテック): 九州から検出された *Steinernema* 属昆虫病原性線虫について
- 10:00 205 伊藤賢治・奈良部 孝(農研セ): タンパク質電気泳動による昆虫病原線虫の識別および線虫の破碎方法の検討
- (10:15~10:35 休憩)
- (座長 二井一禎)
- 10:35 206 清水 啓(農研セ) 非寄主作物栽培がキタネグサレセンチュウ土壌中密度低下に及ぼす効果
- 10:50 207 阿部 卓(全国MOA自然農法産地支部連合会): 自然農法におけるイチゴの *Pratylenchus* sp. による被害発生とマリーゴールド導入の試み(第1報)

- 11:05 208 樋田幸夫(国際農研)・ロヒニ エカナヤケ(スリランカ園芸作物調査開発研): スリランカの作付けの異なる野菜圃場におけるネコブセンチュウ密度の比較
- 11:20 209 松永禎史・王 小冬・石橋信義(佐賀大農): 昆虫病原性並びに菌食性線虫の植物寄生性線虫の根侵入に対する妨害
- 11:35 210 皆川 望(農環研)・植原健人(農環研, 現: 北海道農試)・松尾和之(農研セ): 施肥条件の異なる圃場における線虫バイオマスの比較

13:00~17:00 エクスカーション

10月14日(土)

〔一般講演〕 9:00~10:30

(座長 樋田幸夫)

- 9:00 301 北上 達(三重農技セ): 三重県内のネコブセンチュウに寄生していた天敵出芽細菌 *Pasteuria penetrans* の付着特性
- 9:15 302 佐野善一(九州農試)・J.T. Gaspard(憐ネマテック): *Pasteuria penetrans* の感染量によるサツマイモネコブセンチュウの死亡並びに産卵・増殖の違い
- 9:30 303 立石 靖(九州農試): *Pasteuria penetrans* のサツマイモネコブセンチュウ寄生程度に対する数種殺線虫剤の影響

(座長 水久保隆之)

- 9:45 304 岡田浩明(東北農試) キスジ
ノミハムシ体内から発見された昆虫
寄生性線虫について
- 10:00 305 淵 通則・近藤栄造・石橋信
義(佐賀大農): 無菌系における昆
虫病原性線虫(*Steinernema*
carpocapsae)の殺虫性
- 10:15 306 王 小冬・石橋信義・近藤栄
造(佐賀大農): 昆虫病原性線虫
Steinernema carpocapsae 感染態
幼虫の昆虫死体からの出現時期と感
染性並びに性比との関係

(以上)

〔講演者の方へのお知らせ〕

* 一般講演の講演時間は、一題当たり
15分(予鈴12分, 2鈴15分)です。
時間厳守をお願いします。

* 本大会の一般講演の講演要旨は、会
誌第25巻に登載する予定としておりま
す。要旨の修正が必要な場合は、10月
末日までに農業環境技術研究所 線虫・小
動物研究室(〒305 茨城県つくば市観音台
3-1-1)宛に修正した要旨をお送り下さい。

〔エキスカーショ参加お申込の方へ のお知らせ〕

* 12時50分に大学会館前広場にお
集まり下さい。

* 佐賀市近郊のイチゴと抑制キュウリ
の栽培を見学し、17時に佐賀大学に帰
着の予定です。

〔大会参加費の納入を!〕

第3回線虫学会大会には、80名の会
員より「参加予定」の連絡を受けていま
す。しかし、大会参加費の納入率は低く、
9月10日現在、52.5%に止まって
います。懇親会やエキスカーショ等の
都合がありますので、未納の方は、でき
るだけ大会7日前までに、大会費納入ま
たは参加確認の連絡(電話・FAX)を
お願いします。

会誌編集事務局移転のお知らせ

日本線虫学会誌の編集事務局が、この
9月より、森林総合研究所から農業環境
技術研究所に代わりました。会誌への投
稿論文は新しい編集事務局宛にお送りく
ださい。なお、会誌25巻1号の発行は
予定より遅れておりますが、9月中には
お手元にお届けできると思います。また、
本年末に発行予定の25巻2号は、現在
編集作業を進めています。この号には、
原著論文と共に、10月開催の佐賀大会
で特別講演をいただくR.N.Perry博士によ
る招待論文(総説)、シンポジウムの記
録、一般講演の講演要旨等を掲載予定で
す。また、校閲が早く済めば、これから
投稿の原稿もこの号に印刷になる可能性
があります。会員の皆様からの投稿をお
待ちしております。投稿・会誌について
のお問い合わせは下記にお願いします。

〒305 茨城県つくば市観音台3-1-1
農業環境技術研究所
線虫・小動物研究室内
日本線虫学会誌編集事務局
Tel 0298-38-8316

〔記 事〕

Little Rock 顛末記

奈良部 孝（農研センター）

8月5日～9日までアーカンソー州リトルロックで開催された、第34回 Society Of Nematologist (SON) 年次大会に参加してきました。海外での講演はもちろんのこと、海外旅行も初めて、英語は苦手。出発前から不安いっぱい、石橋会長の力が頼り、という状況でしたが、何とかなるだろうと出発しました。

成田からシカゴ、セントルイスと乗り換え、リトルロックに到着。乗り換える度に飛行機は小さくなり、日本人の姿は全くなくなりました。前日の深夜まで発表原稿を考え、明け方近くまで荷造りをし、ほぼ丸1日飛行機に乗って、文字通り疲労困憊の旅となってしまいました。

リトルロックの空港を出ると目の前に、「Holiday Inn」（今回の大会会場および宿泊となるホテル）と書かれたリムジンが停まっており、順調順調、と喜んで乗り込んだものの、車は予約の時にもらった地図とは反対方向へ。しかし、着いたホテルはやはり Holiday Inn。恐る恐るフロントに尋ねてみると、案の定ここは大会会場の Holiday Inn ではないとのこと。リトルロックには Holiday Inn が3つあり、皆さん良く間違えそうです。

運転手にチップを渡し、空港に戻ってもらい、待つこと30分、ようやく私の待つ Holiday Inn のリムジンがやってきました。今度は間違いなく、大会会場のホテルに着きました。フロントは学会参加者でかなり混雑していましたが、何とか無事手続きも完了し、部屋に落ち着いてようやく長い1日（実質2日）が終わり

ました。夜遅くなってから、石橋会長も到着し、これで安心、その晩はぐっすり寝て、時差ボケは1日で解消されました。

翌日は Registration と Welcome Reception のみのため、気楽な1日でした。少し街を見物してみようと石橋先生と二人、ホテルの周りを歩いてみたのですが、ここはダウンタウンから離れた郊外に位置するため、車がびゅんびゅん走るのみで、見るべきもの、入るべき店などありません。仕方なくホテルに戻り、Welcome Reception まで講演要旨を読み、翌日の発表原稿のチェックをして過ごしました。

Welcome Reception はいっただけでいつ終わったのか分からない状態でした。時間になると各自三々五々と集まってきて、勝手に飲み物と食べ物を取り、思い思いにテーブルに座り、旧交を温めたり、議論に花を咲かせている様子でした。司会者、スピーチなどありません。参加者は200人前後でしょうか、皆顔見知りで和気あいあいといった感じでした。石橋先生はさすがに顔が広く、挨拶に来る人、またはこちらから声をかけて、旧交を温め、彼らを私に紹介してくれました。私もこの機会に、各国の線虫研究の現状や研究スタイル、今後の重点目標などいろいろ聞いてみたかったのですが、どうも適当な英語が浮かんでこないため、通り一遍の挨拶で終わってしまいました。とりあえず、今日は初日、顔見知りになることで十分、と勝手に納得して初日が終わりました。

翌日は日本勢2人の発表の日でした。プログラムは毎日その日の初めに、シンポジウムとしていくつかのテーマで全体会を行い、その後2会場に別れて個々の講演を行うというスタイルでした。シン

ポジウムは、1. 研究室から市場へ：新規素材の開発、2. 臭化メチルに代わる土壌線虫管理技術、3. 形質転換植物による線虫抵抗性、4. アレロパシー機構を利用した農業生産、の4つがあり、様々な角度から、殺線虫剤に代わる線虫防除法の開発をめざしているのが感じられました。

一般講演は11のパートに分けられ、1. 寄主-寄生者関係、2. 生物防除1、3. 抵抗性1、4. 微細構造と生態、5. 学生発表会（Competition）- 優勝者はBanquetで表彰される、6. 抵抗性2、7. 相互作用、8. 線虫管理、9. 分子生物学、10. 生物防除2、11. 抵抗性利用と収量、となっていました。時代と共に、それぞれの分野で流行り廃りがあるようで、講演数・会場に集まる人数に反映されているようです。

冒頭、石橋先生が書いている通り、昆虫病原性線虫グループが別学会に流れたようで、通常なら独立セッションとなるべき昆虫病原線虫が線虫天敵と一緒に、石橋先生と私が同じ生物防除1のセッションでの講演となりました。おかげで私は心強い味方を得たようなもので、特に緊張もなく（多少はあったが）、講演に臨めました。会場は応動昆の線虫セッションや線虫学会の会場より狭く、人数も少なかったのでしょうか。スライド係はおらず、自分でスライドをセットし、リモコンを使いスライドを送ります。

私は“Attachment specificity of *Pasteuria penetrans* endospores to *Meloidogyne* spp.”というタイトルで、ネコブセンチュウの種により、付着する *Pasteuria* の系統が異なること、および付着抵抗性や寄生性の変化が認められることなどを講演しました

（質問を含め15分）。日本語では何度か講演しているのですが、英語にするのに丸1か月くらい準備したのでしょうか。原稿の棒読みに近かったのですが、準備の甲斐あってか、関係者からは分かり易かったと、後で誉めていただきました（外交辞令？）。質問が3つありましたが、何とか切り抜け、講演は無事終了。終了後は D.W.Dickson 教授を始めとしたフロリダ大の *Pasteuria* 研究者が集まってきて、自己紹介と情報交換となりました（彼らとは学会期間中ことあるごとに情報交換をしました）。彼らとコンタクトが取れたことだけでも、遠路遥々やって来た甲斐があったというものです。

夕食後にもワークショップが2つあって、私は、Computers in Nematologyの方に参加しました（もう一方は石橋会長の挨拶参照）。これはインターネットやCD-ROMを使って、線虫の検索や研究情報の紹介を行うものです。これには研究者向けと一般農家向けのものがあり、線虫の写真や抵抗性品種リスト、アメリカの各州での発生種など、入力者の苦勞が感じられるものに仕上がっていました。インターネットを使えば日本からも簡単にアクセスでき、SONのホームページもあって、海外の線虫研究情報を得るにはとても便利です（私も今回の大会のプログラムや講演要旨をリアルタイムで得ることができて、大変重宝しました）。詳細は事項「InternetでNematology」を参照ください。

翌日からは自分の講演も終わり、楽しく講演を聴くことができました。研究内容はもちろんのこと、外国人の発表スタイル、議論の組み立て方なども、とても参考になりました。難問といえば、英語。

スライドを見ながら聞いていると何となく内容が分かったような気がするのですが、フリーディスカッションが始まると、もうお手上げ。何をあんなに議論しているのかな、と口を開けて見ているだけでした。いけない、もっと英語の勉強をしなくては。

アメリカ・カナダ以外の参加者はあまり多くなかったようです。イギリス、オーストリア（かわいらしい女子学生2名の参加が光っていました）、ドイツ、スウェーデンあたりから少々、といったところでしょうか。中国系の参加者が目立っていましたが（10名以上？）、ほとんどアメリカの大学の留学生でした。彼らは、流暢に英語を話し、議論の和に加わっていました。日本勢も頑張ろう！

ポスターセッションは29題あって、3日目の夕食後の2時間が議論の時間に当てられていました。お金と時間をかけた力作や見た目より内容勝負（？）のものやら見ていて飽きません。じっくり議論できるメリットを考えると、自分の講演もポスターの方が良かったかな、とも思いました。

4日目には総会と夜には Banquet がありました。総会での話題の一つは、会員の減少をどうくい止めるか、ということでした。若い会員（学生）が入って来ない、スポンサーとなる企業が去っていくなど、何処も悩みは同じようです。解決策について意見がいろいろ出ましたが、結論は出なかったようです（半分も理解できなかったが）。もう一つの話は、開催スタイルについて。私も、朝から晩まで議論をして、エクスカージョンのようなもの（今回の佐賀大会のような）も無いのはハードかな、と思っていたのですが、

会長の Dr. Santo も新会長の Dr. Chitwood も、「我々は勉強に来ているのだから遊びの時間はいらぬ」といった口調で現行スタイルを支持していました。開催期間の短縮による経費節減も話題に上りましたが、やはり、現行スタイルが支持されたようです。最後に再来年（1997）開催地のアリゾナの紹介スライドで総会は終了しました。

晩は Banquet です。これまでのラフなスタイルから皆さんかしこまってテーブルに着きます。役員が難壇に座り、ご馳走が運ばれて、Banquet の開始。会長挨拶から始まり、今年度の各賞受賞者の紹介・表彰など和やかなムードで進行しました。費用30ドルを考えると、日本の学会の懇親会費は高い？ 楽しい集いでしたが、何回か参加して、外国の友達がたくさんできたらもっと楽しいだろうな、と思いました。

最終日は午前中で終了。さすがに半分くらいに人は減っていました。最後までいたのは2、30人くらいでしょうか。結局最後まで街を見ることなく、リトルロックに別れを告げることになりました。

今回の旅で感じたことは、SONの大会恐れるに非ず（？）、といったところでしょうか。決して彼らが我々よりハイレベルな研究をしているわけではありません、日本の研究も大いに同じ土俵で発表したいものです。英語が不得意でも、準備に多少時間をかければ問題なく発表ができます（とりあえずは理解してもらえる、今回の私がそうだった）。また、彼らは遠方からの研究者を仲間として快く受け入れ、初めてでも安心して参加できます。問題となるのは費用でしょうか。私の場合、今回運良く科技庁の予算をい

いただきましたが、この手の予算は探せばいろいろあるようで、次回も頑張ってみようと思います。だめなら円高であることを期待して、自費で行きましようか。

今回は仏領西インド諸島 Guadeloupe で、第3回国際線虫学会議として開催されます(7/7~12)。時節柄、仏領というのが多少引っかけられますが、今回は日本勢も大挙して参加し、日本の線虫研究を大いに世界に知ってもらいましょう。

Internet で Nematology

奈良部 孝(農研センター)

世間では「Inetnet」という言葉が何かと話題になり、実際に使っている人もそうでない人も、話くらいは聞いたことがあるのではないのでしょうか。このブームのおかげで(?)我が線虫分野でも、このネットワークを介して、簡単に海外の情報を得ることができるようになりました。

簡単に、とは言っても、ネットワークにつながっていないパソコンからの接続はちょっと面倒です。個人で接続するためには、高速モデムの購入、インターネットプロバイダーとの契約、会費・利用料・電話代の支払い(結構高い!)と頭の痛い問題があります。接続のための方法はここでは省略し(A S A H I パソコン10・1号など参照)、すでにネットワークが走っている人、うまく上司をだましてネットワーク構築を約束してもらった人、大金を払いモデム接続を行っている人を対象に話をします(果たしてどのくらいの人が対象になっているのだろうか?)。

まず、NEC 98やDOS/Vパソコンを使っている人は、Windows 3.1(またはNT)が、UNIX系マシンを使っている人はX Windowが動いており(Macintoshは特に条件無し)、そこからメールのやりとりができることを確認してください。この辺もよく分からないときは、前述の参考図書をご覧ください。うまく動作していれば、後はWWWブラウザ(ソフトウェア)だけ用意すればOK。いまなら、Netscape(ネッツスケープ)というソフトがおすすめです。非営利団体の職員や学生は無料で使えます。知り合いから貰うかソフト付き参考書を購入するか、直接<http://www.netscape.com/info/how-to-get-it.html>(後述)にアクセスして入手してください。最新バージョンは1.1N(Windows版は1.2N)です。単体で日本語表示も可能です。また、一太郎6.3などにはWWWブラウザが付属しているので、これを利用するのもいいでしょう。詳細は各ソフトの使用説明をご覧ください。

WWWブラウザがうまく動作したら、もうあとは簡単、早速、線虫関係の情報にアクセスしましょう。各WWW(World Wide Web)にはホームページのURL(アドレス)があり、これをオープンコマンドに続けて打ち込めば接続完了。以下、代表的なホームページのアドレスと簡単な内容紹介をします。

①ネブラスカ大(PARASITIC NEMATODE HOME PAGE): <http://ianrwww.unl.edu/ianr/plntpath/nematode/wormhome.html>

線虫関係のホームページの中で最初に開設されたところで、内容も最も充実しています。また、ここから他の線虫関係のホームページにも容易に移動できるの

で、まずここにアクセスしてみましょう。

主な内容は、Nematodes in General (ちょっとした参考書並の内容)、Morphological and Molecular Diagnosis of Plant Parasitic Nematodes (主な属・種の写真や電気泳動パターンを使った検索ができる、種の解説文付き)、Species List of Nematodes of the Northern Great Plains (日本には馴染みの薄い種もあるが、各種の詳しい解説がある) など。トピックとして、Soybean Cyst Nematode (SCN) Information や Nematodes as Biological Control Agents of Insects などの詳しい記事があります。さらにここにはSONのホームページ (Society of Nematologists Home Page) があり、会員名簿や大会のプログラム・講演要旨、会誌の目次・要旨などが参照できます。次回の大会の案内も早速掲載されている (Information on the Third International Nematology Congress (THINC) French West Indies, Guadeloupe, 7-12 July 1996) ので是非ご覧ください。また、Nematologia Mediterranea と Russian Journal of Nematology の目次・要旨、学会案内等が参照できます。

②カルフォルニア大デービス校

<http://ucdnema.ucdavis.edu/>

このページの売り物は、The Nematology Slide Set と銘打った、線虫の形態・生態写真でしょう。まだ、作成中とのことですが、きれいな画像を見ることができます。将来的には、画像から種の同定や防除法が検索できるようにする予定だそうです。また、ここにもSONのホームページがありますが、ネブラスカ大とは別に運営されているようです。

③フロリダ大

<http://hammock.ifas.ufl.edu/text/ng/21616>

html

ここには農業関係のいろいろな情報がありますが、線虫関係では Nematode Control Guide という記事があります。これは、味も素っ気もないただの文章だけのページですが、各線虫ごとの防除法が詳しく解説されています。

線虫とは直接関係ありませんが、以下のホームページなどは会員の皆様も関心があると思います。

④IPMネットワーク (National Integrated Pest Management Network)

<http://www.recusda.gov/ipm/ipm-home.htm>

害虫の総合防除に取り組む研究機関の総合情報です。各研究機関の情報とリンクしているので、様々な情報に触れることができます。

⑤アメリカ植物病理学会 (APS)

<http://www.scisoc.org/>

アメリカ植物病理学会の情報がすべて詰まったページです。線虫関係は個人の努力で運営されているようですが、このページは専門スタッフが担当しているようで、内容は充実しています。一部機能は、会員のみ (パスワードが必要) 利用可能となります。

以上、解説になっているかどうか分かりませんが、インターネットを通じて、様々な線虫情報が得られることは理解頂けたと思います。我が日本線虫学会からも、世界に向けて情報を発信したいものです。これは、近い将来の課題です。

次号のニュースでは、これらのホームページの詳細な内容、および会員の皆様で、実際にご覧になった方の感想などを載せたいと思います。ご協力よろしくお願いします。(連絡は narabu@narc.affrc.go.jp まで。)

〔編集後記〕

◆今年も暑い夏でした。学会員の皆様には如何お過ごしだったでしょうか。ようやく今年の大会講演プログラムをお届け出来る運びとなりました。以前、大会事務局（佐賀大）で大会出席アンケートを取りましたが、その人数と参加費を振り込まれた方の人数にかなりの開きがあるということです。どうか早めに意思表示をお願いします。むつ五郎と線虫が相撲を取っている立派な図案（石橋会長原案）のTシャツも出来上がっています。では、佐賀でお待ちしております。

（水久保）

◆今号は大会プログラム掲載のための臨時増刊号的なものでしたが、それでは寂しいので、自分で記事も書いてしまいました。線虫研究も海外に目を向けると、様々な情報が得られます。まずは、英語の勉強に励まねば、と思うこの頃です。

（奈良部）

1995年10月1日

日本線虫学会発行

編集責任者 水久保隆之

九州農業試験場

地域基盤部線虫制御研究室

〒861-11熊本県菊池郡西合志町

大字須屋2421

TEL 096-242-1150(代)

FAX 096-249-1002

日本線虫学会ニュース第6号

編集担当：水久保隆之・奈良部 孝

串田篤彦・立石 靖